

## ◆【SOSの出し方教育の授業について】

(1)実施日時 (昨年度も実施し、2年目)

令和4年7月上旬 全校一斉

(2)ねらい

- ・昨年度から自傷行為が増加したことを考慮し、長期休暇前に向け、不安や悩みへの様々な対処方法を理解し、今後起こり得る危機的状況に対応するための援助希求行動について考えることができる。

(3)指導体制 (SC連携型)

講師：スクールカウンセラー、司会進行：生徒指導主事、学級指導：各担任

(4)本時の流れ 教材：「自分を大切にしよう～ストレスへの対処～」 「SOSの出し方に関する教育」



## 【導入】

- ・生徒指導主事から、全校に本時のねらいを話す。本時の題材を知る。

## 【展開】

- ・一人一人が大切な存在であることに気付く。不安や悩みの概要について知る。
- ・つらい気持ちになった時にどのような対処をしているかを伝え合う。
- ・危機的状況に対応するための援助希求行動のあり方を考える。

## 【まとめ】

- ・プレゼンでSCの話を書く。(門的な立場から、具体例を例示された)
- ・本時のねらいに関わって、ワークシートに振り返りを書き、意見交流を行う。
- ・担任教師が本時のまとめを行い、日常生活につなげる。

【SCのプレゼンから】SCが生徒に投げかけた言葉、生徒たちは大切な自分であることを認識した。

「自分がつらい気持ちになった時、どのように対処しているか。」  
 「友達がつらそうにしている時、どのように対処していますか。」の質問に自己を振り返り、考えをもった。  
 ・自分の考えを書き、伝え合う活動を位置付けた。SCから専門的な立場で、プレゼンで具体例を話され、悩みの解消法を説明された。



【生徒の振り返り】 振り返りでは、自己を振り返り、ストレスの対処方などについて意見をもった。

ストレスや悩みを一人で抱え込まないことが大切で、自分に合った対処法を考えていきたいです。また困っている人がいたら声をかけて少しでも軽くなるように話を聞いたり、相談にのったりしたいです。

困ったことがあったら信頼できる大人に相談したいです。もし友達が悩みや不安でストレスを感じていたら、話をじっくり聞いて助けてあげたいです。

ストレスの対処法は、いろいろあり、自分に合った対処法を取り入れて、ストレスをためないように健康で生活したいと思います。

## ◆【職員研修の充実について】各専門の先生方から実体験を話され、具体的な話から学ぶ機会を設けた。

○背景 昨年度、自傷行為の件数が増え、若手教員を始め、関わりや対処法について躊躇することが多い現状がある。自傷行為の未然防止、対応について全職員で共通理解を図った。

○日時 8月下旬 ○参加者 町内の教職員、病院の先生

・職員研修①13:30 「自傷行為に関する研修・講義」

「自傷行為への理解を深めよう～生きづらさに寄り添って～」

・職員研修②15:30 「自傷行為に関する研修・ロールプレイ」 SC

事例をもとに、先生役と生徒役になり、声のかけ方、関わり方を学び合う。

○ねらい 自傷行為に関する研修を行い、生徒への指導・助言を学び、様々な事例を通して、生徒との関わりや対応から日常生活の中で活かすことができるようにする。

## 先生の感想

私が印象に残っているのは、自傷した人への関わり方です。どうしても分かったつもりで話を進めてしまったり、アドバイスを送ってしまったりすることが多くありました。相手が求めているのは、そこではなく共感してほしいという気持ちだということが分かり、個への関わり方を再認識しました。心配している人が身近にいることを伝えてあげたいです。

自傷行為は「こころの痛み」の現れであることを改めて学ぶことができました。その子を分かろうとするために、想像して共感することは、行為への理解だけでなく、生徒指導にも通じると思います。目の前の子どもたちを分かろうとする気持ちでこれからも子どもたちを見つめていきます。